

## 予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：農林水産業費 項：林業費 目：森林研究費

## 事業名 研究開発機器等設備整備費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

森林研究所

電話番号：0575-33-2585

E-mail：[c25108@pref.gifu.lg.jp](mailto:c25108@pref.gifu.lg.jp)

## 1 事業費

7,084 千円（前年度予算額：6,670 千円）

## &lt;財源内訳&gt;

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財産 収入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	6,670	0	0	0	0	0	0	0	6,670
要求額	7,084	0	0	0	0	0	0	0	7,084
決定額									

## 2 要求内容

## (1) 要求の趣旨（現状と課題）

森林研究所においては、「健全で豊かな森林づくりの推進」、「林業及び木材産業の振興」を支援する研究開発に取り組んでいるが、研究機器等の老朽化や能力不足のため、業界や行政からの要望や課題等に十分応えることが困難となってきた。

県内産業に「役立つ研究開発と質の高い技術支援」を提供するため、先端的研究の実施に必要な研究関連施設の整備を行う。

## (2) 事業内容

○微量高速冷却遠心機の更新

## 【要求理由】

キノコ等に含まれる成分やDNAを分析する際に、試料の遠心分離を行い、分析対象となる成分を効率的に抽出するために使用する。

現有の高速冷却遠心機は昭和63年に購入してから30年以上経過し、冷却温度が設定通りにできないといった不具合が生じている。交換部品の入手もできず、修繕ができないことから、更新する必要がある。

### ○生物実体顕微鏡の更新

#### 【要求理由】

害虫の形態学的特徴や樹木病害の病斑の特徴等を観察するために使用する。

現行の実体顕微鏡は、平成7年度に購入してから25年経過しており、鏡筒内にカビが生え、解像度が著しく低下している。また、光沢のある試料の観察に必要な同軸落射照明装置、半透明で微細な構造を有する試料の観察に必要なLED透過照明、観察画像を記録する高精細な撮影システムを備えていないことから、更新する必要がある。

### ○赤外線サーモグラフィカメラの整備

#### 【要求理由】

キノコ栽培施設内の温度分布を測定するために使用する。

昨今、高温が原因と考えられるキノコの発生不良が起きており、その原因究明を目的とした研究を令和3年度から開始する。現在、施設内の温度測定は温度センサーを用いて行っているが、これでは施設内のある一点の温度が分かるだけである。実際に発生している高温による異常は、部分的であり、施設全域の温度分布を測定し、温度のばらつき状況を把握するためにはハンディタイプのサーモグラフィカメラの整備が必要である。

### ○クリーンベンチの更新

#### 【要求理由】

キノコの培養、組織分離、育成試験を無菌条件下で行うために使用する。現有するクリーンベンチは、昭和63年度に購入してから30年以上経過しており、クリーン度が不安定であることや殺菌用の紫外線ランプが不良であることなどの不具合が生じている。また、製造中止から時間が経過し、部品の供給ができず、修理ができないことから更新が必要である。

## 3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細	
備品購入費	7,084	微量高速冷却遠心機	1,202 千円
		生物実体顕微鏡	2,943 千円
		赤外線サーモグラフィカメラ	1,430 千円
		クリーンベンチ	1,509 千円
合計	7,084		

### 決定額の考え方

# 事業評価調査（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

## 1 事業の目標と成果

### （事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか  
先端的研究を行うために必要となる研究関連施設等の整備により、研究業務の充実・停滞防止を図る。

### （目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前	指標の推移		現在値 (前々年度末時点)	目標	達成率
	(H )	(H )	(H )	(H )	(H )	%
	(H )	(H )	(H )	(H )	(H )	%

### ○指標を設定することができない場合の理由

研究所における研究業務の効率化・合理化を図るための施設整備等を行う事業であるため、目標設定は困難。

### （前年度の取組）

・事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数等）  
令和2年度は、キノコ個別培養制御装置、生物顕微鏡システム、光量子測定装置を購入した。  
過去の購入等実績  
平成30年度 特産実習棟の空調冷凍設備の更新  
令和元年度 動物個別飼育制御装置の更新

### （前年度の成果）

・前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果  
老朽化した機器の更新等により、研究業務の効率的、合理的な遂行が可能となった。

## 2 事業の評価と課題

### (事業の評価)

<p>・事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い      △：必要性が低い</p>	
(評価)  ○	研究の効率化や企業等が求める研究を推進するため、研究機器や施設の整備は必須の事業である。
<p>・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおりまたはそれ以上の成果が得られている △：まだ期待どおりの成果が得られていない</p>	
(評価)  ○	研究機器や施設を整備することで、企業や県民が求める研究が効率的に推進できており、事業の有効性は高い。
<p>・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている      △：向上の余地がある</p>	
(評価)  ○	先端的研究を行うために必要となる研究関連機器や施設の充実に関しては、整備の緊急性や必要性等を総合的に判断し、優先順位を付けたうえで効率的に整備している。

### (今後の課題)

<p>・事業が直面する課題や改善が必要な事項 研究所の研究施設等は老朽化しているものが多く、整備には多額の費用が必要となることから、予算が不足することが課題である。</p>
--

### (次年度の方向性)

<p>・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 着実に研究成果を上げ、研究業務に支障を来さないようにするためには、継続的な研究施設等の整備が必要である。</p>
--